

2013 年度 入学 試験 問題

国 語

(試験時間 13:15~14:15 60分)

1. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
2. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
3. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
4. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
5. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。
6. 設問文にある点数は、満点が100点となるような配点表示になっていますが、国文学専攻の配点は150点となります。



一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(50点)

二〇〇一年九月十一日のアメリカ同時多発テロから十年を迎えたタイミングで、国際テロ組織アル・カイダの首魁(しゅがい)ウサーマ・ビン・ラーディンが殺害された。この時間の符合は、ウサーマのグローバル・テロリズムに対する影響力や求心力が弱まっていたとはいえず、歴史の節目として象徴的な出来事だったといえよう。⁽¹⁾しかも、中東で「アラブの春」と通称される市民の変革と民主化が時機を同じくして進行した事実は、この十年間の中東はじめイスラーム世界の構造変動、ひいては市民意識の変化を、まざまざと見せつけるものであった。

いちばん大きく変わったのは、もはやアラブやムスリム(イスラム教徒)の市民たちが、同胞を巻き込み婦女子(じょ)さえ犠牲にするウサーマらのグローバル・テロリズムに寛容でなくなったことである。これまで、エジプトのムバラクやシリアのアサドといった国内の長期独裁政権に圧迫されたアラブ市民のなかには、「反米・反イスラエル」にその不満のはけ口を求め、ウサーマらに共感する人びともいた。⁽³⁾しかし、市民権や豊かさへの憧(あこが)れと、テロの支持は両立するものではない。反米と反イスラエルの姿勢を掲げればイスラーム共同体からあれ犠牲者を出して構わない、という無差別テロに対する嫌悪感が広がったのである。それでは、こうした変化は何故にこの十年間に起きたのであろうか。

九・一一以降の国際政治における最大の教訓は、仮にアメリカの文明論的な価値観がいかに崇高かつ使命感に溢(あふ)れているとアメリカ人が自負したとしても、それを武力で別の世界に強制はできないという真実を改めて知ったことであろう。イラクのアブグレイブ刑務所や、キューバのグアンタナモ米軍基地における捕虜虐待の様子は、二〇〇八年の金融危機によるアメリカ型経済モデルの魅力シツツイとあいまって、アメリカの自由と民主主義、人権尊重と自主自尊の社会の魅力の色あせたものにしてしまった。

九・一一からの十年は、アメリカによる自由と民主化の「文明戦争」の不毛さだけでなく、内戦やテロによってイスラーム共同体の「理想」を政教一致国家として実現しようとするアル・カイダなどイスラーム原理主義過激派のおぞましきも白日のも

とにさらした。いずれにも共通するのは、(6)である。

そのせいでもあろうか、オバマ大統領は、もはやコストのかかる新たな軍事的任務を中東において引き受けないと明言した。中東現代史の教訓は、戦争が必ず各種のヤツカイなテロを誘発し、グローバル・テロリズムが戦争の引き金になるといふ悪循環の構造をつくる事実にはかならない。中東における戦争とテロは、さながら双子のような関係にあるのかもしれない。

アル・カイダのグローバル・テロリズムは、アメリカの引き起こした戦争と同じように、ムスリムやアラブの一般市民からもたくさん犠牲者を出した。異教徒の攻撃による死者と、イスラームの聖地を大義名分にしたテロで犠牲となった市民とのあいだに、人間の死のあり方の差異を納得させる理屈を見いだすのはむずかしい。

アメリカを憎むあまりアル・カイダのテロに共感しがちだったムスリムとアラブの市民たちも、自らの独裁者を追放しない限り、⁽¹⁰⁾中東社会の根本矛盾を解決できないという公理に気づき、長いまどろみや沈黙から目覚めたのだ。それは、アラブ・ナシヨナリズムやイスラーム原理主義といった外向けの思想で内政の矛盾を糊塗する独裁者に市民がツイズイした現代アラブの歴史に、終止符が打たれたことを意味する。この点こそ、二〇一一年一月のチュニジアとエジプトに始まる中東アラブの政治変動の本質であり、九・一一から十年を迎えたムスリムやアラブにおける市民意識の大きな変容の意味なのだ。

ウサーマらのアル・カイダは議会制民主主義と複数政党政治を批判してきた。確かに、いつときは欧米の軍隊や市民への武装闘争やテロ、イスラーム教理の徹底した過激な解釈こそが、失業と低賃金に苦しむ中東アラブの若者に希望を与えることもあつたに違いない。

しかしアル・カイダの未来像には、開かれた政治と社会、異なる意見への寛容と忍耐、人びとの心と生活を豊かにする経済ビジョンが欠けていた。秘密警察と密告システムがつくった「恐怖の壁」を乗り越えたアラブの市民が二〇一一年に求めたのは、自由、法の支配、経済開発と人間開発を結合した豊かさにほかならない。新しい世代の市民は貧困を解決できなかったナーセル以来のアラブ・ナシヨナリズムの歴史を書き換えたのである。

アラブの政治的まとめりや文化的一体性を説きながら長期の独裁政権を正当化してきたイセイイ者を見ればムバーラクとカダ⁽¹²⁾

フィーとサッダーム・フサイン（フセイン）とのあいだにさほどの差異もなく、テロによって正義を求めたウサーマのイスラーム原理主義武装闘争派が市民を殺害する犯罪と変わらないとすれば、アラブ・ナショナリズムや汎イスラーム主義（西欧列強の植民地化に抗して唱えられた、イスラーム世界の統一を謳う思想）の呪縛から普通のアラブ市民が解き放たれるのは時間の問題だったといえよう。そして、人工的につくられた「壁」と「呪縛」を乗り越えた営みこそ、いわゆる「アラブの春」だったのである。これは「拳国一致」の名目で市民の民主的願望を封殺してきたアラブ・ナショナリズムの限界を露呈させるものでもあった。こうしてアラブ市民がウサーマのテロを否定する未来像をきちんと自力で描けるようになれば、アル・カイダの伝統的テロの手法が着実に淘汰されていくのである。

しかし、テロリズムが衰退する道筋を樂觀的に描くこともできない。むしろリビアなどでも、テロリズムが民主化運動の一翼に入り込む危険な兆候が現れているからだ。さらに、アサド父子が四十年以上も独裁を続けてきたシリアでは、反政府デモと民主化運動を核とする市民革命のなかに、アル・カイダにつながる国際テロ組織が浸透しているという情報もある。

リビアのカダフィーは自分たちを追放してしまつたら誰がアル・カイダを抑えられるのかと反論したこともあった。この言いぶんにも真実の一端が含まれている。皮肉なことに、「テロとの戦い」においてアメリカやEUが盾として使い、また庇護してきたムバーラクやカダフィーらの独裁政権が弱体化したことは、テロリズムの浸透という意味ではアメリカのジレンマともなっている。

これを解決する道筋は、アサドやカダフィーらが国内の抑圧を正当化してきた根拠をなくすことである。つまり、(14) に見れば、(15) にはパレスチナ問題の解決であり、(16) には若年層の人口増加による不完全雇用（失業）の解消が必要である。そして、この二つを結びつけるパラメーターとしての自由・法の支配・豊かさの獲得こそが、二〇一一年のアラブの民主化運動の目標となったのである。

パレスチナのガザ地域で多数の市民がイスラエル軍による武力行使の犠牲になってきた現実にはアメリカとその市民が目をつさいでいる限り、カダフィーとビン・ラーディン二人の流れは「性格の違う双子」として生き残るだろう。また、中東アラブ世界

では「多子⁽¹⁸⁾ジャクレイ化」が進んでおり、アル・カーイダなどのテロ組織が各国に広がったのは、こうした組織が、不満や怨恨をもつ若者たちにとって「就職口」として機能していたことが理由でもあったことを忘れてはならない。ウサーマ・ビン・ラーディンの死は、国際テロリズムの支持基盤を根絶する一里塚にすぎないといえよう。

(山内昌之『中東新秩序の形成』による)

〔問一〕 傍線(5)(8)(11)(12)(18)を漢字に改めなさい。(楷書で正確に書くこと)

〔問二〕 傍線(1)「歴史の節目として象徴的な出来事だった」とあるが、筆者はなぜ「象徴的」と言っているのか。その理由としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 市民権や豊かさを求める市民の意識が高まり、テロリズムとの決別が明確になったことを象徴していたから。
- B 長期政権の圧迫によって困窮した市民たちの中に、変革を求める意識が高まってきたことを象徴していたから。
- C テロリズムに対する市民の意識が変化し、ビン・ラーディンに代表される時代の終わりを象徴していたから。
- D 反米運動に対する市民の意識が変化し、グローバルな価値観を受け入れるようになったことを象徴していたから。
- E ビン・ラーディンの影響力が完全に消滅し、アメリカ的価値観の勝利が決定的になったことを象徴していたから。

〔問三〕 傍線(2)(4)(7)(9)の文法的説明としてもっとも適当なものをそれぞれ左の中から選び、符号で答えなさい。ただし、同じものを繰り返し用いてもかまわない。

- A 名詞
- B 接続詞
- C 副詞
- D 助詞
- E 助動詞
- F 接尾語

〔問四〕

傍線(3)「市民権や豊かさへの憧れと、テロの支持は両立するものではない」とあるが、なぜそのように言えるのか。本文の趣旨から考えられる理由としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 市民権や豊かさという国内的な願いと、反米意識という外国への敵意は異なる方向を向いた考え方だから。
- B 市民権や豊かさへの憧れを持つ人びとは、そのような社会の実現を阻もうとするテロの考え方を支持しないから。
- C テロの成功によって市民権を得ることはできても、それによって豊かさを得られるという見込みは持てないから。
- D 市民権や豊かさを阻害しているのは独裁政権であり、それはテロによって解決しない問題だと市民が気づいたから。
- E 豊かさへの憧れとテロへの支持が両立するには、テロによって独裁政権を打ち破れるというビジョンが必要だから。

〔問五〕

空欄(6)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 結果への責任を回避しようとする姿勢
- B 現実を徐々に変えようとする方向性
- C 国家と市民との間の共犯的な関係
- D 市民の支持を得るための行動の過激さ
- E 武力や暴力の政治的効果への過信

〔問六〕

傍線(10)「中東社会の根本矛盾」とあるが、その内容を具体的に示している箇所を本文の傍線(10)以降から、三十字以上四十字以内で抜き出しなさい。(句読点なども一字に数えること)

〔問七〕 傍線(13)「アメリカのジレンマ」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A アメリカがアラブの独裁政権を弱体化させたことによって、かえってアメリカの立場を危うくしたというジレンマ。
- B アメリカが国外から体制を補強してきたにもかかわらず、それらの政権が国内で支持基盤を失ったというジレンマ。
- C アメリカが支持していないアラブの長期独裁政権の弱体化は、かえってアメリカの危険を拡大したというジレンマ。
- D アメリカの盾となる政権が続いていたのに、アメリカがそれらの国から支持を得られなかったというジレンマ。
- E アメリカやEUがテロリズムと戦っているながら、テロを容認する国の独裁政権を長く支えてきたというジレンマ。

〔問八〕 空欄(14)(15)(16)に入れるのもっとも適当なものをそれぞれ左の中から選び、符号で答えなさい。ただし、同じものを繰り返し

返してはならない。

- A 効率的
- B 根本的
- C 社会的
- D 政治的
- E 長期的
- F 民主的

〔問九〕

傍線(1)「性格の違う双子」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 安定的な社会の重視と過激なテロリズムの容認という違いはあるが、若者の就職口としての機能を持ったという意味では共通している。

B 市民権の抑圧と自由な政治活動の容認という違いはあるが、西欧社会への対抗意識を根底に持つという意味では共通している。

C 西欧諸国の盾となるか極端な反米行動をとるかという違いはあるが、イスラーム社会のためのテロの容認という意味では共通している。

D 長期独裁による国内支配とテロリズムへの依存という違いはあるが、イスラーム社会の一体感を基盤にするという意味では共通している。

E 豊かさへの希求を重視するか安定的な社会を優先するかという違いはあるが、市民の反米意識を基盤にしているという意味では共通している。

二 次の文章を読んで、後の間に答えなさい。(30点)

また、⁽¹⁾ ついでなきことには侍^{はせ}れど、怪^けと人^アの申^アすことども⁽²⁾の、させることなくてやみにしは、前^{さき}の一条院^イの御即位^ウの日、大極殿の御装束すとて人々あつまりたるに、高御座^{たかみくら}のうちに、髪^{かみ}つきたるもの頭^{かしら}の、血^ちうちつきたるを見つけたりける、あさましく、いかがすべきと行事思ひあつかひて、かばかり^オのことを隠^{かく}すべきかとて、大入道殿^{おほにみだうどの}に、「かかることなむさぶらふ」と、なにがしのぬしして申させけるを、いと眠^{ねぶ}たげなる御けしきにもてなさせたまひて、ものも仰せられねば、もし聞こし召さぬにやとて、また、御⁽³⁾けしきたまはれど、うち眠⁽⁴⁾らせたまひて、なほ御⁽⁵⁾いらへなし。いとあやしく、さまで大殿籠^{おほどのぢ}り入りたりとは見えさせたまはぬに、いかなればかくてはおはしますぞと思ひて、とばかり御前^{おまへ}にさぶらふにぞ、うちおどろかせたまふさまにて、「御装束は果てぬるにや」と仰せらるるに、聞かせたまはぬやうにてあらむと思^{おぼ}し召^めしけるにこそ、と心得て立ちたうびける。⁽⁷⁾げにかばかりの祝ひの御こと、また今日になりてとまらむも、いま⁽⁶⁾いましきに、やをらひき隠^{かく}してあるべかりけることを、心肝^{こころかた}なく申すかなと、いかに思し召^めしつらむと、後にぞ、かの殿もいみじう悔いたまひける。⁽⁸⁾さることなりかしな。されば、なでふことかはおはします、よきことにこそありけれ。

〔大鏡〕による)

注 怪……怪奇なこと。 前的一条院……前の天皇である一条天皇。

大極殿……大内裏の八省院の北部中央にあった正殿。即位の儀式を行った所。

御装束……飾り付け。 高御座……天皇の座る玉座。 行事……儀式を執り行う担当者。

大入道殿……藤原兼家。一条天皇即位後、右大臣から摂政に昇進。 なにがしのぬし……なんとかいうお人。

〔問一〕 傍線(1)(3)(5)(6)(7)の解釈としてもっとも適当なものを、左の各群の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

(1) 「ついでなきことには侍れど」

- A 話は変わりますが
B 話の順序が逆になります
C ついでの話というわけではありません
D ちょうどよい機会というわけではありません

(3) 「御けしきたまはれど」

- A お指図をなさったが
B ご指示をもらおうとしたが
C ご様子をうかがいなさるが
D 起こすような様子をなさったが

(5) 「うちおどろかせたまふさまにて」

- A ひどくあきれたご様子で
B ふと目を覚まされた様子で
C ひどくびつくりなされた様子で
D 思い切って目を見開いたご様子で

(6) 「いまいましきに」

- A 縁起が悪いので
B 無駄になるので
C 嘆かわしいので
D しゃくにさわるので

(7) 「心肝なく」

- | | | | |
|---------------|--------|-------|-------|
| ┌───────────┐ | | | |
| D | C | B | A |
| あわてふためいて | 心配のあまり | 思慮が浅く | 意志が弱く |

〔問二〕 傍線(2)の「の」と同じ意味の「の」を、左の中から一つ選び、符号で答えなさい。

- A 傍線ア「人の」の「の」
- B 傍線イ「一条院の」の「の」
- C 傍線ウ「御即位の」の「の」
- D 傍線エ「頭の」の「の」
- E 傍線オ「かばかりの」の「の」

〔問三〕 傍線(4)「いかなればかくてはおはしますぞ」とあるが、この疑問に対する答えに当たる部分を本文中から二十五字以内で抜き出さない。(句読点は一字に数えない)

〔問四〕 傍線(8)「さることなりかしな」の説明としてもつとも適当なものを、左の中から一つ選び、符号で答えなさい。

- A もつともなことだという、一条院の感想。
- B そういうことでしたと事実を淡々と述べた、かの殿の言葉。
- C もつともなことだという、大入道殿の感想。
- D そういうことでしたと事実を淡々と述べた、語り手の言葉。
- E もつともなことだという、語り手の感想。

〔問五〕 この文章は、怪奇な出来事に対してどう対処すべきであったと考えているか。該当する部分を本文中から十五字以内で抜き出しなさい。(句読点は一字に数えない)

〔問六〕 次のア～オのうち、本文の内容と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

- A 一条天皇の即位の日の怪奇な出来事は、凶事の子兆であった。
- B 怪しい出来事を隠そうとした儀式の担当者は、語り手から非難されている。
- C なにがしのぬしはじめ、兼家の真意に気づかなかった。
- D 兼家は都合の悪いことは見て見ぬふりをする、優柔不断な政治家としてえがかれている。
- E 兼家は剛胆さと深慮とを兼ね備えた、老練な政治家としてえがかれている。

三 次の文章を読んで、後の間に答えなさい。(設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある)(20点)

晋侯、使太子申生伐东山。里克諫献公曰、太子奉冢祀社稷之粢

盛、以朝夕視君膳者也。故曰冢子。君行則守、有守則從。從曰撫軍、

守曰監國。古之制也。夫率師、專行謀也。誓軍旅、君与國政之所、

也。非太子之事也。師在制命而已。稟命則不威、專命則不(3)。故

君之嗣適、不可以帥師。君失其官、率師不威、將安用之。公曰、寡人有

子。未^レ知^ニ其太子誰^{ツル}立^カ。里克不對、而退、見太子。太子曰、吾其廢乎。

(『史記』による)

注 晋侯……晋の献公。

东山……山西省の異民族。

里克……晋の宰相の名。

冢祀社稷之粢盛……祖先の祭りと国家神に供える穀物。

嗣適……後継ぎ。

寡人……君主の自称。

〔問一〕 傍線(1)「里克諫_二獻公_一曰」という里克の諫言は、どこまでか。その最後の漢字二字を、本文の中から抜き出して答えなさい。(漢字以外に何も書かないこと)

〔問二〕 傍線(2)「師在_レ制命而已」の解釈としてもっとも適当なものを、左の中から選び符号で答えなさい。

- A 太子にとって大切なのは、ただ命令に従うことです。
- B 太子にとって大切なのは、まず命を大切にすることです。
- C 軍を動かすのに大切なのは、命を惜しまないことです。
- D 軍を動かすのに大切なのは、まず命令権をおさえることです。
- E 軍を動かすのに大切なのは、命令を間違えないことです。

〔問三〕 空欄(3)に当てはまる漢字として、もっとも適当なものを、左の中から選び符号で答えなさい。

- A 仁
- B 義
- C 智
- D 孝
- E 礼

〔問四〕 傍線(4)「不可以帥師」は「もってしをひきみるべからず」と読む。これにしたがって解答欄の原文に返り点をつけなさい。(返り点以外に何も書かないこと)

〔問五〕 傍線(5)「吾其靡乎」とは、なぜそう思ったのか、その説明としてもっとも適当なものを、左の中から選び符号で答えなさい。

- A 申生が献公から、里克の言うとおりにするように命令されたから。
- B 申生が献公の命令に逆らって、里克の言うとおりにしなかったから。
- C 申生が献公に対して、太子として親不孝なことをしようとしたから。
- D 申生が里克と一緒に、献公に無断で軍隊を動かそうとしたから。
- E 申生が太子なのに、献公が太子は誰とも定まっていなと言ったから。